

平成23年度 学校経営の基本方針

1. 基本理念

学校は、学習指導要領で求められている「生きる力」を、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた支えにより、育成していく必要があります。生きる力とは子どもが実社会の中で生きていく力であり、また自分自身をしっかりと生きていく力でもあります。小学校教育は子どもたちがこれからの厳しい社会において、たくましく生きていくための基礎的な「知・徳・体」の基本を育成していく場でもあります。

本校は横須賀市の学校教育の指導方針を基盤に新たな時代を生き抜いていく子どもたちの育成のために教職員が力を出し合い、協力しあって地域・保護者の方々から信頼される学校にすることを目標とします。

2. 学校教育目標

『心の豊かな子』の育成・・・このままで 「ともに学びともに生きる・築く」

教育目標の達成のために

- ① 全ての教育活動は、学校教育目標実現のための活動です。
- ② 学校教育目標の設定は保護者や地域に対して示した学校の公約です。
(簡単に変えることはできません、保護者、地域に説明が必要です。)
- ③ 学年・学級は教育目標実現のために一人ひとりの発達段階に即した指導にあたり、子ども一人ひとりが力を高められるように目標を設定します。
- ④ 全ての指導は「きめ細やかな指導」「発展的な学習」「学ぶことの楽しさの体験」「学びの機会の充実」の方策を重点として取り組みます。
- ⑤ 教育活動はPDC Aサイクル+Rを基本とし実践を重ねていきます。
- ⑥ 教員と子ども・保護者・地域との関係による学び合いを進め、協働と信頼に根ざした学校づくりを目指します。

3. めざす子どもの姿

① 明るい子

- ・元気にあいさつをする子
- ・自分の考えや思いを進んで発表ができる子

② 思いやりのある子

- ・人としての優しさを持つ子
- ・自然を愛し、命を大切にする子
- ・お互いを認め合い、協力し合うことができる子

③ 深く考える子

- ・学ぶことに喜びを持つ子
- ・基礎・基本の知識や技能を進んで学ぼうとする子
- ・課題意識を持ち、自らが調べ学習する子
- ・自分で考え、正しい判断ができる子

④ たくましい子

- ・友達と元気に遊べる子(外遊びができる子)
- ・健康で丈夫な身体をつくれる子(運動が好きな子)
- ・どんなことにでも最後まで頑張って取り組める子(粘り強く頑張れる子)

⑤ 進んで取り組める子

- ・自らが進んで行動し取り組める子
- ・目標を持って取り組める子
- ・責任を持って取り組める子

4. めざす学校の姿(目標の具現化に向けての姿)

I 子どもたちにとって楽しい・行きたい学校とは

- ① 学習内容がわかりやすく、楽しい授業の学校
- ② いじめ・差別・暴力がない、仲の良い友達がいる学校
- ③ 子どもを認め・励まし・ほめ・しかる、そして支えてくれる先生がいる学校
- ④ 行事等を仲間と助け合って全力で取り組める学校
- ⑤ 安全・安心できる環境の学校

II 保護者・地域が期待する学校とは

- ① 基礎的・基本的な学習を確実に身につけさせてくれる学校
- ② 基本的な生活習慣を身につける手助けをする学校(基本は家庭)
- ③ いじめや差別・暴力がない、子どもがいきいきと活動しているのがわかる学校

- ④気軽に相談ができる環境であり、子ども・保護者・地域に開かれた学校
- ⑤安全で安心して生活ができる環境の整った学校

Ⅲ 教職員にとって魅力ある学校とは

- ①自分自身の特性や専門性を発揮でき、持ち味を生かした職責を果たせ自己実現できる学校
- ②人間関係が良好で職員全体で協力し支え合い、差別や偏見がない人権が守られている学校
- ③子ども・保護者・地域との信頼関係が良好で協力し合える学校

5. 本年度の重点目標

I 効果的な学習指導の方法やあり方を研究・研修し授業の質の向上に努める

- ①学力向上プラン策定と推進を図る。
- ②校内研究では、体育の授業研究を中心に研究を進め、「自ら考え、行動する子」を育てるための研修に励み教師の授業力向上を目指す教育活動を進める。
- ③主体的な学びを目指した、「総合的な学習」の時間の充実を図る。
- ④ICT機器を活用した授業や学校図書館の活用を考えた授業の取り組みの充実を図る。
- ⑤評価規準・基準の明確化を図り、指導計画や指導法の工夫・改善を図る。

II 人との関わりを通して、心が豊かな子どもの育成を図る学習活動や学級活動を進める。

- ①1年生から6年生までの異年齢構成の小集団縦割り活動を通して、縦のつながりを大切にし、思いやりや責任感・協力・助け合いの心を育てる。(集会・清掃)
- ②粟田デイサービスとの交流や体験活動・地域の方との交流を通して、いろいろな立場の人を思いやる心や協調性などを育てる。
- ③いじめや差別を絶対に許さない教育に努める。
- ④一人ひとりの教育的ニーズに応えるための支援教育を進める。
- ⑤日常生活の中で、あいさつの励行を進め、心の交流を一層深める。

Ⅲ 家庭や地域との連携と地域教育力の活用を図り、開かれた学校づくりに努める。

- ①保護者との対応は誠意をもって迅速に行い、常に「子どものために」という子ども中心の尺度で取り組む。(誠実・迅速・正確)
- ②学校だより・学級だより、懇談会などを活用し、学校の状況を知らせ、理解を深め、学校・子ども・地域のよさを生かした教育を進める。(教育活動の見えるか)
- ③学校評価アンケートの実施や学校評議委員会・地区懇談会等の開催を通して、保護者や地域の意見・考えを把握し、課題を明らかにし、学校改善に生かす。
- ④学校関係者評価委員会を充実し、PDCA+リサーチのサイクルに基づいた学校経営を推進する。
- ⑤地域教育力のさらなる活用のため、学校人材バンクを作成し、学校ボランティア、ゲストティーチャーなどの活用を進める。

IV 校務分掌の機能と責任を明確にし、運営の効率化を図る。

- ①教職員一人ひとりが持つ良さと特性を生かし、組織的な教育活動を展開するように努める。
- ②校務にあたっては、自分の良さ・特性を生かし、積極的・創造的に取り組み、他の分掌とも連携をとりながら、円滑な学校運営がなされるよう努める。
- ③支援教育委員会の活動をさらに充実し、校内支援体制の整備を図るとともに、指導力を高めるため研修の実施に努める。
- ④学校予算の効率的な編成と意図的・計画的・組織的な執行を行う。

V 地域ぐるみで子どもの安全を確保し、教育環境の整備・充実を図る。

- ①事故防止・事故対応に全校で取り組み、対応マニュアルを整備し、訓練を実施。職員の共通理解を図る。(避難訓練・防犯訓練・防犯教室・安全点検等)
- ②「ハイランド子ども見守り隊」や子ども会、保護者や地域の方々による通学路における児童の安全確保や交通指導などの協力に努める。また、校外委員会を中心にして保護者や地域の方々、教職員による校内外パトロール・安全マップづくり・名札着用・声かけを実施し、安全確保の徹底に努める。

6. 本年度の学校研究

- ・研究テーマ「自ら進んで考え行動する子」～体育の授業を通して～
言われたことや教師の指示に対して素直に取り組める児童は多いが周りの人や状況を考えて行動したり、自分から進んで行動する力に課題があり。
子どもの主体性を高めることができる学習・体で実感できる学習に取り組む。